ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学　看護学部　看護学科
講師　東福寺 愛実

2023 年 8 月作成

１．教育の責務

近年、少子高齢化がさらに進む中で、看護職の活躍の場は医療機関に限らず在宅や施設等へ拡がっており、多様な場において、多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが期待されており、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められている[1)]。

さらに看護職員には、知的・倫理的側面や、専門職として望まれる高度医療への対応、生活を重視する視点、予防を重視する視点及び看護の発展に必要な資質・能力が求められる。そのため、看護基礎教育については、チーム医療の推進や他職種との役割分担・連携の進展が想定される中、看護に必要な知識や技術を習得することに加えて、いかなる状況に対しても、知識、思考、行動というステップを踏み最善の看護を提供できる人として成長していく基盤となるような教育の提供が不可欠である[2)]。

本学の看護教育では、こうした保健医療福祉の変化や国民の期待に応えることのできる看護専門職としての基礎的能力を有する看護職員を育成することが責務である。

私は、本学の看護学部に今年度採用され小児看護学を担当している。授業では小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習、看護総合実習、総合看護演習、看護研究Ⅱを担当している。他の活動として、教務委員会、学外実習教育運営委員会、国家試験対策委員会、３－４年生学習担当、クラス担任、学生募集関連協力教員、キャンパスライフ充実プロジェクトメンバーの活動を行っている。
過去３年の教育内容としては、前職では成人看護学の授業・演習・臨地実習、老年看護学の授業・臨地実習を担当し、他に国家試験対策委員、１－２年生の学習担当を行った。
過去3年間に担当した授業科目は以下のとおりである。

2021年度

科目名	時期
成人看護学援助論Ⅴ	２年生前期
成人看護学健康期実習	３年生前期
成人看護学実習	３年生前期・後期
老年看護学援助論Ⅲ	２年生後期
基礎看護学Ⅱ実習	２年生後期

2023年度

科目名	時期	受講者
小児看護学概論	２年生前期	56名
小児看護学援助論Ⅰ	２年生後期	54名
看護総合実習	４年生前期	8名
領域実習（小児看護学）	３年生後期	48名
看護研究Ⅱ	4年生前期後期	6名
総合看護演習	４年生後期	59名

参考資料）１）令和元年10月に実施「基礎看護教育検討会報告書」厚生労働
２）平成23年2月に実施「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」厚生労働

本学での授業・実習以外の活動項目と内容
１）教務委員会
２）学外・実習教育運営委員会　副委員長
３）国家試験対策委員会　３－４年生学習担当
４）クラス担任
５）学生募集関連協力教員
６）キャンパスライフ充実プロジェクトメンバー

１）カリキュラム内容や方法、学生の動向など様々な視点から学生の利益が損なわれないように、委員として積極的に意見を述べるようにしている。
２）実習が滞りなく進むことや１）と同様に学生の不利益にならないように、委員として積極的に発言することを心掛けている。特に臨地実習は外部施設の協力を得ながら実施するため、外部施設に教育への理解を得ながら学生の学びがより深まるような方法を常に意識している。
１）２）では、問題が生じた場合、あるいは生じる危険性のある場合などをいち早く報告・提案し解決に向けて委員会の協力を得るように意識している。
３）国家試験の合格率を上げるために学生の国試に対する意識を高めることや効果的な学習方法を委員会で検討しながら、学生の学習を最大限にサポートできる体制を整えている。特に３－４年生の学習係として、国家試験対策である模試の振り返り学習の方法指導、強化補講の企画・他教員への依頼、4年生の学力低迷者指導に向けた学習会や成績別による学習サポートを計画している。4年生の学習会は前期から実施しており、成績別学習会は後期から実施予定である。
４）については各学年のカリキュラムを踏まえ、定期的に個別面談や個別指導を行い、学生の精神面での変化にも注意している。特に欠席が多い学生や成績が低迷している学生は早めに面談を行い、学生の状況を把握し効果的な学習ができるように支援している。4年生は就職試験の面接対策や国家試験への取り組み状況を確認し、学生の意思を踏まえながら支援を行っている。
５）高校訪問の実施やキャンパス見学会、高校ガイダンス、高校生1日看護師体験の座談会に出席し本学の入学者が増えるように医療職への関心や本学の魅力を発信するようにしている。
６）については学生のキャンパスライフが充実するための企画を提案し実施に向けて現在活動している。

２．教育理念
本学は建学の精神に基づき「豊かな人間力」「専門的な知識・技術力」「開かれた共創力」を兼ね備えた人材の育成を掲げている。さらに看護学部３ポリシーを軸にした看護専門職者の育成に寄与する。

専門的な知識・技術力は基礎教育において非常に大きなウエイトを占めるが、加えて、様々な人々を対象に看護を提供するため、「豊かな人間力」と互いを認め合い、双方の力を引き出し合いながら目標に向かっていく「共創力」は、様々な場において他職種との連携の中心となる看護専門職に大きく求められる力である。さらに「想像力」「気づく力」「誠実性・倫理性」を備えた人材の育成を自身の教育の中心としている。

１）「想像力」を備え、幅広い視野で考えることのできる人材の育成
その人が経験していない場合であっても、その状況を想像し、起こりうる問題や可能性を考えることのできる力は、医療の対象者だけでなく、協働者の立場に立って考え、相手の痛みや気持ちを想像し、相手に寄り添った行動ができる人材となる。

２）「気づく力」を育む教育

保健・医療・福祉の場では、対象の状況をいち早く察知して対応できる鋭い観察力が必要となる。特に、言語的コミュニケーションが難しい場合、認知機能に障害がある場合において、対象者の心情への配慮や安全安楽な環境調整が重要となる。また、事故防止の観点からも、少しの変化に「気づく力」は自他の生命を守るために欠かせないスキルである。

３）高い「誠実性・倫理性」を備えた人材の育成

誠実性：目の前にある問題の解決や目標達成に向けて、丁寧に取り組み、責任感を持ってやり遂げる。また、勤勉であり正直で礼儀正しい。

倫理性：人間としての尊厳および権利を尊重する。
自分の責任と能力を把握し自身の行動に責任を持つ。

１）２）３）が育めるように日々学生と接する場面で言葉や行動で示すことや学生の行動に対してフィードバックすること心掛けている。

４）学生が看護に対して興味をもちイメージをしやすい授業展開

視聴覚教材や事例など自身の経験を活かした内容、また小児病棟看護師や小児救急看護認定看護師の講義を組み入れ、看護に対してイメージがしやすく、興味の持てる授業展開を心掛けている。

３．教育方法

前期の授業は小児看護学概論を実施している。小児看護学概論では、小児看護学の基礎となる子どもの成長・発達や小児看護のあり方、母子に関する法律や施策、現代社会の子どもの問題など幅広い知識を学ぶ必要性がある。そのため、見やすく理解しやすい内容を心掛けるとともに、毎回の授業で国家試験問題を取り入れ、知識の確認ができるようにしている。

概論は子どもの成長・発達を理解するうえで覚えるべき重要な知識が多いため、テキストに沿ったパワーポイントと資料を用いて重要部分を強調し、繰り返し学生に伝える事で知識の定着を図っている。

さらに、子どもを取り巻く社会では、現代社会の問題を学生が思考しやすいように、最新の情報や統計を取り入れながら伝えている。また、自身の臨床での経験を伝える事で、興味を持ちやすく、イメージしやすい授業を意識している。特に子どもや家族の思い、子どもを社会で守る意識（虐待への対応）、子どもの事故防止など事例を挙げて伝えることで、小児看護のあり方を伝えている。

後期からの援助論Ⅰでは、30 回の講義・演習を予定している。小児の疾病治療論を想起させながら、病気をもつ子どもとその家族への看護や成長・発達に応じた子どもへの説明の仕方、様々な小児期の症状に対する看護などを分かりやすく伝えていく必要がある。視聴覚教材を通して、イメージしやすい内容にすることや、事例を使って学生自身が思考する事を意識した授業展開に努めていく。また、小児病棟看護師、小児救急看護認定看護師による講義を予定しており、学生にとって子どもの特徴や臨床看護の実際等、小児看護につい理解できる機会となる。

臨地実習においては、近年の少子化により、一般病院の小児科が減少していることなどから、小児看護学において実習施設の確保が困難となっており、学生が実習で経験できる内容にばらつきが生じている。現在は１施設の実習で賄えているが、今後は状況に応じて実習施設の開拓やシミュレーション教育の充実を図る必要がある。

教育理念の具現化としては、授業や臨地実習の中で、事例や臨地実習での体験、個別指導の際に学生が相手の状況や気持ちを想像できるように具体的な声掛けや指導を行う。学生は、受け持ち患児や家族との関わり、学生同士のカンファレンス、実習指導者の意見

や体験を聞く事を通して「想像力」「気づく力」を育むことができると考える。
「誠実性」や「倫理性」は学習への取り組み姿勢の指導、学内演習での患者体験、臨地実習前のガイダンス、臨地実習での患者との関わりなど多くの場面で意識づけが行われている。小児看護学においても同様に、子どもや家族への「誠実性」「倫理性」は常に意識していくことを実習や演習場面を通して指導していく。卒業時には本学の理念である「豊かな人間力」の基礎が培われ、生涯を通じて成長し続ける人材が育つ環境づくりを念頭においている。

４．教育の成果・評価

前期の講義では学生授業評価アンケートの結果が出ていないため、今後はアンケート結果を活用し、授業内容・方法について振り返り、改善点を見出すとともに次年度の授業に活かす予定である。毎回の授業終了時のリアクションペーパーを見ると「毎回授業の中で国試問題が出るため知識の確認が出来る」、「子どもの成長に驚いた」、「子どもを取り巻く現代社会の問題への興味や疑問」「教員の臨床経験が興味深かった」など、率直な感想や質問などが記載されていたことから概ね良好な成果がみられている。

５．今後の目標

短期目標：授業内容の精選、わかりやすく学生の興味が沸く授業方法の検討
後期に実施される臨地実習での課題に応じた実習方法の評価・修正
国家試験を視野に入れた授業や実習の継続

今年度の授業や臨地実習の内容は初めて実施する内容であるため、今年度実施した結果によって評価・修正を加えより成果の上がる授業・臨地実習にしていく必要がある。
授業では学生参加型の内容を組み入れ、主体的に学ぶ姿勢を育てていきたい。
概論では国内だけでなく、海外の子どもの現状を伝え、学生が幅広い視野を持てるように意識して教授していく。また、子どもの問題を認識するだけでなく、解決に向けてどうすれば良いかを思考できる力を育てていく。
国家試験合格のために、授業や実習では継続して国試問題を取り入れ、低学年から学生自身が意識して取り組めるように支援していく。

長期目標：相手に寄り添い、現状にとどまらずに相手にとってより良い看護を提供する意思をもった専門職の育成。

対象者の現状を把握し、問題解決および対象者の利益を追求できる思考を育てる。
さらに、専門職業人として高い知識と行動力、豊かな人間力を育成するために、教員自らが日々自己研鑽することが重要である。
新しい知識を追求し、得た知識や体験を学生に還元できるようにしていく。